農村文化の継承や市民活動支援のために

笠井實さん　市に1,000万円を寄付！

佐々木市長に目録を手渡した笠井さん（左）

当市の大規模農家・笠井實さんが２月17日、農村地帯に伝わる伝統文化の継承や市民活動の支援に役立ててもらおうと、1,000万円を市に寄付しました。

笠井さんは本県における大規模農家の先駆者として長らく地域の農業をけん引してきました。市農業委員を15年務めたほか市転作集団連絡協議会副会長などを歴任し、平成31年度には市の発展に貢献してきた功績で市褒賞を受賞しています。

同日、笠井さんが佐々木市長に目録を手渡し「人口減少や高齢化などによって虫送りを含めた農村地帯の伝統文化が途絶える危機を迎えており、コロナも相まって活動しにくくなっている。私にできる範囲でなにかしたいと思い、今回、寄付することにした」と話しました。

佐々木市長は「新型コロナの影響で弱くなっている地域活動の活性化支援などに有効活用していきたい」と今後の活用について話しました。

今月号の表紙　〔患者に寄り添う看護師に　高等看護学院卒業式〕

今月号の表紙を飾ったのは、３月５日に行われた高等看護学院第54回卒業証書授与式の様子です。

高等看護学院は２年課程夜間定時制の専修学校で、１～２年目は准看護師としての業務を行いながら勉学に励み、３年目は実習で経験を積んで看護師を目指します。今年度は19名（男性１名、女性18名）の卒業生が、地域医療への貢献を誓い、巣立ちました。

卒業生代表として答辞を述べた齋藤汐里さんは「必要なケアを提供する難しさに悩む日々だったが、患者さんの笑顔や温かい言葉に励まされた。看護師として努力を惜しまず、成長していきたい」と話しました。

また、当市出身で地元に就職する山田祐菜さんにお話を伺うと「学業と仕事との両立が難しかった。これからも経験を積みながら技術を身に付け、患者さんとその家族に寄り添った看護をしていきたい」と今後の抱負を話しました。

答辞を述べた齋藤さん（右）や
山田さん（左から２人目）ら卒業生たち